



# 学思

「学びて思わざれば則ち罔く、思いて学ばざれば則ち殆し。」——『論語・為政篇』

Newsletter No.69

2021年10月～12月

JSPS Beijing



## 目次

●活動報告	2
・広島大学北京研究センターとの共催シンポジウム	
・「大連理工大学—日本友好大学協力周年記念活動」	
に参加	
●活動記録（2021年10月～12月）	3
●編集後記	3

編集・発行

日本学術振興会北京研究連絡センター

# 広島大学北京研究センターとの共催シンポジウム 「『紅葉を詠う詩』日中漢詩対話および交流検討会」

2021年10月23日(土)、24日(日)に、「『紅葉を詠う詩』日中漢詩対話および交流検討会」と題する学術シンポジウムを、広島大学北京研究センターと共催しました。

本シンポジウムでは、本年9月に刊行された漢詩集『紅葉を詠う詩』を記念して企画されたもので、日中の自然観および環境意識について、日中の若手・ベテラン、プロ・アマ様々な立場の研究者による発表と討議が行われました。



中国側会場（首都師範大学）

会場は、日本側：広島大学、中国側：首都師範大学をオンラインで繋いだ他、首都師範大学・広島大学共同大院生や首都師範大学日本語学科学生など約150人がオンラインで参加しました。

冒頭、佐藤利行広島大学教授（希平会会長、中国文学）から、「紅葉を詠った詩」というテーマに沿って集められた日中の詩の中に見られる自然観や東方美意識について検討・対話したいという趣旨が述べられ、自らは西郷隆盛（南洲）の漢詩に見る美意識について紹介しました。次いで、『紅葉』の共同編著者である大谷博国にしき堂社長から、漢詩を日中の共通文化財であるとする見方からの考察が披露されました。これらに続いて、テーマに沿った多様な発表



日本側会場（広島大学）

がありました。

当センターからは、成瀬副センター長がJSPSの国際事業について、中国や人文学分野の交流を中心に紹介しました。

数日前に北京市で約70日ぶりとなる新型コロナ感染例が発見され、中国側会場に数名の発表者が入れないというハプニングがありましたが、オンライン発表で代替され、イベントは無事終了しました。

## 「大連理工大学—日本友好大学協力周年記念活動」に参加

2021年11月5日～翌年1月の間、全10回にわたり開催されるシリーズイベント「大連理工大学—日本友好大学協力周年記念活動」に参加しました。

大連理工大学は、地理的・歴史的に日本と近い関係にあることから、長年にわたり、日本の大学と密接な交流を続けてきました。現在、同大は東京工業大学、広島大学など50以上の日本の大学と大学間交流協定を締結しています。同大によると「日本の学位を持つ教師の数は海外の学位を

持つ教師の38.9%を占め、これらの専任教師は本校の日本との交流の重要な担い手となっている」そうです。また、1987年から「日本語×理工系」の学校運営モデルを掲げ、日本語に精通した理工系人材を多数育成してきた実績は、日中双方の高等教育関係者から高く評価されています。本センターでも以前、希平会参加大学とともに、同大で日本留学説明会を開催し、高い関心を集めました。

本年の記念活動では、11月5日の「大連理工大学—埼玉大学友好交流30

周年記念活動」を皮切りに、本年で一定の区切りを迎える日本の協定校10校とそれぞれ記念イベントが行われました。折悪しく、大連市では新型コロナの感染が拡大している最中の開催となりましたが、当初からオンラインで企画されたイベントは、かえって多くの参加者を集め、同大と日本の大学との交流の厚みを感じさせるものでした。本稿執筆時点ではあと4校との記念活動を残していますが、成功裏に終了することを祈念します。

## センターの活動記録

(2021年10月～12月)

10月

23日～24日 広島大学北京研究センターとの共催シンポジウム（ハイブリット開催：首都師範大学他）  
29日 広報文化十一者会出席

11月

5日～翌1月 大連理工大学『日本友好大学協力周年記念事業』（全10回）（オンライン）  
29日 広報文化十一者会出席

12月

9日 在中国公館長会議（日中国交正常化50周年セッション）（オンライン）  
20日 広報文化十一者会出席

## 編集後記

11月17日から北京市では、以下を骨子とする厳格な入京制限が実施されています。

- ① 14日以内に市中感染者が1例以上いる県（市、区、旗）に滞在歴がある者が北京に入る（戻る）ことを厳格に制限する。
- ② 北京に入る（戻る）者は、48時間以内のPCR検査陰性証明と「北京健康宝」（アプリ）の「緑コード」が必要。
- ③ 北京で全国的な会議、研修などのイベントを開催することを厳格にコントロールする。

これらの措置は、少なくとも、2月に始まる北京冬季オリンピックが無事終了するまでは継続されると見られています。北京センターでも、12月に初めて北京市内で対面により企画した個人情報保護法に関するセミナーを感染拡大防止の観点から中止しました。

中国全体では、12月に入って西安市で大規模な都市封鎖（ロックダウン）が実施されるなど、コロナとの戦いに終わりは見えません。

2022年は日中國交正常化50周年に当たります。当面、記念イベントの開催などは厳しい状況ですが、年後半に向けて、今後の日中交流に希望の持てる年になることを祈念します。

副センター長 成瀬雅也



日中國交正常化50周年記念ロゴマーク (© 中国日本商会)



吉林省查干湖冬の漁  
撮影者：JSPS 北京センター職員

## 日本学術振興会 北京研究連絡センター

JAPAN SOCIETY FOR THE PROMOTION OF SCIENCE BEIJING REPRESENTATIVE OFFICE

北京市海淀区西三环北路 89 号 中国外文大厦 A 座 404 室

郵便番号 :100089

Tel: + 86-10-8882-4331

Fax: +86-10-8882-4332

E-mail: beijing@jfps.org.cn

URL: www.jfps.org.cn

副センター長 成瀬雅也

現地職員 江岸、余彬



WeChat

